

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	神奈川県	市町村名	藤沢市	大学名	
派遣日	令和 4年 2月 25日(金曜日) 15:00 ~ 16:30 ※派遣当日の次第を添付いたします。				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所	Zoomによるオンラインでの実施				
アドバイザー氏名	甲府市立大国小学校 教諭 今澤 悌 先生				
相談者	藤沢市教育委員会 教育指導課				
相談内容	・国際教室担当教員やボランティアの日本語指導員のための、効果的な日本語指導の 具体について				
派遣者からの 指導助言 内容	<p>演題：在籍学級を「生きた学びの場」に ～教科学習を通して教科の力、日本語の力を育てる～</p> <p>○日本語指導のプログラム（サバイバル日本語、基本語基礎、技能別日本語、日本語と教科の統合学習、教科の補修）の概論を説明いただくとともに、「日本語と教科の統合学習」に比重を置いて指導助言をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語指導ですべてを指導することには時数的にも限界がある。外国につながるある児童生徒が時間を最も過ごす場である「在籍学級」を「生きた学びの場」にするという視点をもって指導・支援にあたることが大切。・日本語を学ぶことと教科内容を学ぶことを一つのカリキュラムとして構成した「日本語と教科の統合学習」プログラムを組むことで、外国につながるある児童生徒が授業に参加でき、授業を理解するための支援につながる。・各教科の目標を達成するためには、どんな日本語の力が必要かを考えて、日本語指導の目標を設定することが大切。そのためにも、日本語指導を受ける児童生徒が在籍学級においてどのような授業を受けるかを分析したうえで、授業の計画や展開を構想し、支援の在り方を工夫する。・支援には、大きく5つある。①理解支援（実物等提示、図式化、ワークシート、リライト教材等）、②表現支援（表現モデル・話型の提示、穴埋め問題で記述の支援等）、③記憶支援（語彙や表現の記憶を促す支援）、④自立支援（自分で学習する力を高める支援）、⑤情意支援（学習への動機づけ等の支援）これらの支援をその場に応じて使い分けながら、教科学習を通して日本語指導を行っていく。・できるだけゆっくり話し、擬音語、擬態語の使用は避ける等、教師・指導者の話し方で、外国につながるある児童生徒の理解が格段に上がる。伝える情報を切り分ける、整理する、簡略化する等、すぐにでもできる支援がある。・外国につながるある児童生徒が日本語指導を通して育まれることは、日本語力には限らない。在籍学級で授業に参加し、知識や技能を習得すること。学校生活が充実して送れること。より良い進路を開けること。アイデンティティを確立し、自己肯定感を高めて、現在、そして将来に対する力と意欲をもてることである。				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>○今澤先生ご自身の実践例を具体にして、丁寧で分かりやすいお話を伺うことができた。「日本語と教科の統合学習」に関するお話を伺ったことで、日本語指導そのものが孤立しないように行うことが大切であると感じた。在籍学級の授業を外国につながる児童生徒にとって生きた学びの場にするための様々な支援の形や方法を具体的に提示していただき大変参考になった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 課題としては、国際教室担当教員は在籍学級との情報交換も行いやすいが、日本語指導員は、同日に複数の学校を兼務し巡回していることもあり、時間的に在籍学級のことを細かく把握できない状況にあることである。情報共有の方法について検討していきたい。・ 今後の取組方針については、今澤先生の講演内容を、来年度の日本語指導員や国際教室担当者会、校内支援担当者会等の場で広く周知する機会を設けることによって、本市の日本語指導のノウハウを蓄積し、指導改善につなげていきたい。
--------------------	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。